基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

東Ⅰ病棟の改修工事について　　経営企画室長　瀬上　誠

東Ⅰ病棟につきましては、急性期対応を充実させるため、病棟の一部改修個室化工事を行っておりましたが、お蔭をもちまして、本年２月末には個室 12 床が完成予定となりました。また、そのうち６床につきましては、２月１日より使用出来る見込みとなっております。個室が 12 床増えたことにより、今までより円滑に精神科の急性期患者の受入が出来るようになるのではないかと考えておりますので、医療関係者の皆様におかれましては、今後とも患者様の御紹介を頂きますよう宜しくお願いいたします。

個室化工事の経緯につきましては、当院は、昨今、時間外などの救急患者等の受入数の増加に伴い、個室が不足し、患者様受入のための部屋の調整に苦労する状況が生じておりました。そこで、救急患者等の急性期患者の受入を行っている東Ⅰ病棟の４床室（６部屋）に間仕切りを行い、個室を 12 部屋作ることになりました。平成 29 年４月に計画し、７月に基本設計が完了、11 月に施工業者が決定、12 月から個室化工事に着手しました。２月末に工事が完了すると、東Ⅰ病棟の医療法上の病床数が４８床（運用病床数は 44 床）、そのうち半数の 24 床が個室となります。

新しく出来る 12 床の病室については、床面積が 14 ㎡程の広さとなっており、当院の旧来の個室の約１．５倍の広さがあるため、急性期患者様がプライバシーが守られたゆったりとした癒やしの環境で治療することが出来るようになっています。

改修工事に際しましては、東Ⅰ病棟の病室が最大 24 床使用出来ない状況であったため、期間中は、東Ⅰ病棟の入院患者数を減らす必要があり、新入院患者様の調整のため、県内の多くの医療機関のご協力を賜りましたこと、本当に深く感謝申し上げます。当院としましては、今後とも、地域の要望に応えられる精神医療を提供できるよう努めて参りたいと考えておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

院　長

福治康秀（ふくじ　やすひで）
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科
- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと
- 病棟等建替　進捗状況　本体工事：新病棟（第１期工事）完成 ・・・・・・・・ 平成27年7月
- 整備の動き　雨水配水管盛替工事　完成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年2月
  新病棟（第２期工事）　完成予定 ・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年10月

教育・研修
- 第53回琉球セミナー　講師（共同研究者）：近藤　毅先生
  平成30年2月16日（金）17:30～18:15　（琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座 教授）
  国立病院機構琉球病院　研修棟3階大会議室　研究担当医：栗原雄大先生（琉球病院医師）

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

琉球病院は、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。
国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS　検索　QRコード

地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。

一般精神をはじめ、アルコール依存症（アディクション全般）、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。

また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたいと思っております。初診はじめ、受診については予約で行っております。ご相談はお気軽に地域連携室までお問い合わせください。

空床状況　1月30日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
3床	15床	3床	2床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
地域医療連携室（直通）
TEL：098－968－3550
FAX：098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は223例になりました。平成29年12月のCLZ導入は4例で、全て他の病院からのご紹介の患者様（入院3例、通院1例）でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成29年12月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

当院では、沖縄県より「子どもの心の診療ネットワーク事業」を受託し、取り組みを進めています。その取り組みの1つに、離島支援があります。

宮古島では数年前から取り組みを進めており、医療・保健・教育・福祉領域の関係者と研修や事例検討を行ってきました。また、事業を通してできたネットワークを用いて患者様の紹介を受ける機会も増えてきました。石垣島では、今後の連携や取り組みについて話し合いを重ねており、その縁で入院の患者様のご紹介をいただくなど、着実にネットワークができてきています。

今年度は新たに久米島からも支援の依頼があり、2月下旬に医療・保健・教育・福祉の関係者の方々と今後の連携について協議する予定となっています。

沖縄は地理的に離島が多く、また、社会資源も限られているため、離島支援の取り組みは重要だと考えます。少しずつではありますが、子どもたちの健やかな育ちを支えるために、地元の支援者と話し合いながら、できることを一緒に考えていけたらと思います。

認知症医療　・もの忘れ予防教室について

琉球病院ではH28年度より「もの忘れ予防教室」の取り組みを開始してきました。
今後は、近隣の自治体及び地域へ研修会を通して認知症予防教室を当院から地域にスムーズに実現可能な方法で移行し、地域貢献を図りたいと考えております。
認知症予防のための教室を立ち上げたいと考えている自治体や地域の皆さんに、これまで取り組んできた「もの忘れ予防教室」の運営方法やプログラムなどをお伝えして、地域の皆様が気軽に参加できる身近な場所で認知症予防に取り組んでいただけることを目標としています。
1月からは、もの忘れ予防教室の参加者と研修受講者との合同体験型研修会となります。今後も皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

重症心身障がい医療

今回は以前にも本紙面でご紹介させて頂きましたが、3月10（土）に開催予定の第40回九州地区重症心身障害研究会についてご紹介したいと思います。本研究会は九州地区における重症心身障害児（者）の医学・看護・療育の研究・研修を推進し、重症心身障害者のQOLの向上に寄与することを目的に、重症心身障害者医療・療育に関連する医師、看護師、児童指導員、保育士、理学療法士等が一同に会し、日頃の研究成果の発表をおこない、知識の普及向上の場となっています。現在、九州各県より160名程の参加申し込みがあり、発表演題は61題を予定しております。また、特別講演として今回は佐賀県の国立病院機構肥前精神医療センター、児童精神科医の會田先生から「重症心身障害医療の中での行動障害治療」をテーマに講演を頂きます。沖縄県では初の開催となり会場は沖縄県男女共同参画センター「ている」を予定しています。興味のある方は琉球病院療育指導室までお問い合わせ下さい。多くの皆様ご参加をお待ちしています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では12月末現在、外来通院の患者様77　名、入院中の患者様20　名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成29年12月の訪問看護利用者数は、716件ありました。月別平均では、35件の訪問看護の展開となりました。訪問日は、固定の日時になっておりますが、訪問看護利用者様の都合により、利用者様と訪問日程の相談・調整を行い随時変更を行っております。

2月は、最も寒い時期となりインフル感染が各地で流行の兆しがみられます。健康管理では、睡眠を十分にとり栄養面に留意し手洗いやうがいを行い、外出時や人混みの多い場所では、マスクの着用を行い感染予防に努めましょう。

臨床研究部活動状況

『ギャンブル依存症標準的治療プログラムに関する研究』

特定複合観光施設区域の推進に関する法律（IR推進法）が平成28年12月に可決・成立し、ギャンブル依存症対策が明記されました。これに伴い、銀行などではカードローンの過剰借り入れを防止する制度の導入を検討し、公営競技場やパチンコ店では、入場制限やパチンコ出玉規制規準を見直すなど、関連業界では検討が始まっております。厚生労働省では、ギャンブル等依存症の実態把握の全国調査やギャンブル等依存症に対する専門的な医療の確立に向けた研究など、依存症対策に向けた研究が各領域で始まります。当院では「ギャンブル依存症標準的治療プログラムに関する研究（代表者:久里浜医療センター　樋口進 院長」）において研究協力機関として研究を進めて参ります。